

1 教育目標（目指す児童像含む）

社会に貢献できるよう、心身ともに健康で、豊かな人間性をもった実践力のある児童を育成する。

- ・ 健康で たくましい子（体）
- ・ よく考え やりぬく子（知）
- ・ 正しく 思いやりのある子（徳）
- ・ ふるさとを愛する子（徳）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「人間尊重の教育」を基盤として、全職員が自らの使命を自覚し教育活動の充実に努めるとともに、家庭・地域と協働した地域とともにある学校づくりを推進し、学校教育目標の具現化を目指す。

目指す学校像 ・安全・安心な学校 ・学力向上に取り組む学校 ・地域とともにある学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ○「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針

「学習指導要領」「栃木県教育振興基本計画 2025」「第二次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」等の趣旨に基づき、児童の実態を踏まえるとともに、地域の特色を有効に活用し、学校教育目標の具現化を目指す。

- (1) 「健康でたくましい子」の育成に向け、基本的な生活習慣を身に付ける指導と主体的に健康な体づくりができる教育活動に取り組む。
- (2) 「正しく思いやりのある子」の育成に向け、道徳科の充実を図り、個々のよさを伸ばし、相互にかかわることをとおして認め合いながら、豊かな人間関係を築く教育活動に取り組む。
- (3) 「よく考えやりぬく子」の育成に向け、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るとともに、教科担任制の実施により教科の専門性を生かした授業づくりを行い、学習意欲の向上及び基礎学力の定着を目指した学習活動に取り組む。
- (4) 「ふるさとを愛する子」の育成に向け、地域ボランティアの協力を得た体験活動や、「宇都宮学」を中心とした学習活動に取り組むとともに、本地域ならではの災害等を正しく理解し、自ら危険を予測して回避できる力を身に付ける活動の充実を図る。
- (5) 「地域とともにある学校づくり」に向けて、社会に開かれた教育課程の視点に立ち、地域の教育力を最大限に生かし、家庭及び地域社会との連携を一層深める。また、積極的な情報発信に加え、地域協議会を効果的に活用する。
- (6) 教職員一人一人が健康かつ教育的愛情をもって質の高い教育が行えるよう、「働き方改革」の視点に立ち、職場環境並びに業務改善の取組を推進する。特に教職員自身が自らのキャリアプラン構想を大切にし、「セルフリフレッシュデー」などを活用し、常日頃からメリハリのある勤務を心がける。
- (7) 教職員は、自己研鑽に努め、児童一人一人を大切にされた教育活動を展開し、誰からも信頼される教職員として職務を遂行する。

【瑞穂野地域学校園教育ビジョン】

9年間の連続した学びの中で、

生きる力（確かな学力、健やかな体、豊かな人間性・社会性）を育てる小中一貫教育

～言語能力を身に付け、他者と関わりあいながら、たくましく成長する児童・生徒の育成～

4 教育課程編成の方針

教育課程の編成にあたっては、関係法令、小学校学習指導要領、県教育委員会の指導指針、宇都宮市学校教育スタンダード、学校経営の方針等に基づき、学校及び児童の実態を十分に踏まえ、家庭・地域との連携・協働により、「社会に開かれた教育課程」を実現する。

- (1) 学習指導要領の内容を十分に理解し、人格の完成を目指し、個性の伸長と豊かな人間関係づくり、基礎的・基本的な学習内容の定着と活用力の育成を図るとともに、教科担任制の実施、教科横断的な視点に立った内容の充実に努め、知・徳・体のバランスを大切にしながら「生きる力」を育む教育課程を編成する。
- (2) 児童一人一人の生きる力を育むために、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開し、教師と児童が一体となった創造的な活動に取り組む。また、道徳科の授業を要として、学校教育活動全体、並びに家庭・地域における豊かな体験をとおして、児童の道徳性の育成を図り、道徳的実践力が養われるよう教育課程を編成する。

(3) 小中一貫教育カリキュラムを展開していく中で、地域学校園の各学校と連携を図り、小中一貫教育の趣旨を十分に踏まえた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）○「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標

(1) 学校運営

地域や家庭と連携し、児童も教職員も生き生きと主体的に活動できる「安全・安心な学校づくり」の充実

○児童が安全に、かつ安心して楽しく通える学校づくり

○基礎学力を確実に身に付けることができる学校づくり

○教職員一人一人が自身のキャリアプランや働き方について高い意識を持って勤務し、ゆとりのある学校づくり

(2) 学習指導

○「基礎・基本を大切にしながら、児童がいきいきと学ぶ授業の構築 ～算数科の授業実践を通して～」

(3) 児童生徒指導

○「自他のよさを認め、互いに励まし合いながら行動する児童の育成」

(4) 健康（体力・保健・食・安全）（元気アップ教育に係る取組を含む）

○「自己の健康や安全に関心をもち、主体的に行動する児童の育成」

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

○「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	○「話を聞く」態度の育成や「分かりやすく伝える」力を高めることで、「伝え合い」「学び合い」の充実を図り、児童の思考を深めたり、確実な学力を育んだりする。 ・デジタル機器や図書等を活用して情報を集め、自分の考えをまとめたり他者と交流して深めたりする時間を確保し、主体的・対話的で深い学びの充実を目指す。	B	【達成状況】 児童 92.4% 教職員 100.0% 保護者 93.2% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、今年度の取組を継続していく。特に「伝え合い」「学び合い」の充実を図り、児童の思考を深めたり確実な学力を育む取組を積極的に取り入れたりしていく。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民肯定的割合 90%以上	・朝の会、帰りの会をはじめ様々な機会を捉えて、他者への優しい行いを称賛するとともに、思いやりに欠けた言動が見られた場合には、その都度相手の立場から考えてみるよう促すなど、丁寧に指導する。 ・遊びの場や清掃の時間をなかよし班活動（異学年交流の場）として活用し、相手の立場を理解して思いやる心を育てる。	B	【達成状況】 児童 95.4% 教職員 100.0% 保護者 97.4% 地域住民 100.0% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・児童の優しい行いを称賛することを継続して行い、異学年交流を充実させる。

	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	○各種検定等を継続的・計画的に位置付けることを通して、児童が「自ら目標を設定し、それに向かって努力することの大切さ」に気付けるよう支援していく。 ・道徳の授業で、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせ実践意欲を高めるとともに、学習するときなど、いつも自分なりの目標をもって取り組めるように支援する。 ・懇談会や行事等において、保護者に、様々な場面で物事に粘り強く取り組んでいる児童の姿を見てもらう機会を設けたり、学校での様子が具体的に伝わるよう発信方法を工夫したりする。	B	(達成状況) 児童 88.5% 教職員 100.0% 保護者 88.2% ・児童と保護者の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、今年度の取組を継続していく。特に、目標を設定し、ふりかえりを継続的に行うことで、目標に向かって粘り強く取り組んでいるという意識をもつことができるようにする。 ・保護者には児童が粘り強く取り組む姿を発信していく。
1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	・感染症の流行状況を注視しながら必要な対策を講じ、拡大防止に努める。 ・避難訓練(火災・地震・竜巻・洪水等)、防犯教室、交通安全教室などの定期的な実施、事前指導・事後指導の充実を通して、児童が安全な学校生活を送ろうとする意識を高め、日常生活における自らの安全確保に必要な各自の判断力を確実に身に付けさせていく。 ・情報交換会や定期的な交流、あいさつ運動や登下校指導などの機会を活用し、スクールガードチーム及び見守り隊との連携を深め、児童の登下校の状況の把握に努める。また、児童が主体的に通学時の安全について考え行動する機会を設け、安全意識の高揚を図る。 ○体育関係各種検定カードの活用や業間のスポーツタイムの充実により、自ら体力向上に取り組む児童の育成を図る。	B	【達成状況】 児童 93.9% 教職員 100.0% 保護者 94.7% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続し、児童が自分事として安全・健康に興味をもち、適切な行動選択ができるよう、必要な安全及び健康教育に取り組む。
1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	・授業や活動時の振り返り活動を重視し、児童が発揮したよさや、努力したこと、自分自身の成長を自覚できるような自己評価・相互評価の場を設ける。 ・キャリアパスポートを活用しながら、自身の成長を実感できるような場を設ける。 ・教職員が見取った児童のよさを積極的に本人に伝えたり、児童同士が互いのよさを認め合う場を毎日の帰りの会などで設定したりして、児童が自分のよいところを自覚できる機会を数多く設ける。	B	【達成状況】 児童 92.4% 教職員 100.0% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・キャリアパスポートを活用しながら、自身の成長を実感できるような場を引き続き設ける。 ・児童同士が互いに認め合う場を学級活動や帰りの会等で設け、児童の自己肯定感が高まるような活動を続けていく。

2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	・校内研修等により教師自身の指導力を向上させ、英語によるコミュニケーションの楽しさを児童が実感できる授業の構築に努めるとともに、学級内の掲示や会話の一部に外国語を取り入れる。 ・外国語の図書資料を充実させ、外国語活動・外国語科の授業はもちろん、授業以外の時間にも児童がALTと交流できる場(読み聞かせ等)を増やす。	B	【達成状況】 児童 87.8% 教職員 93.8% ・児童の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・学級内で簡単な英語を日常的に用いることで、普段から英語に親しむ環境をつくる。 ・ALTによる読み聞かせ、交流給食、休み時間等と一緒に過ごすなど、交流の場を増やしているの、今後も引き続き継続していく。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 80%以上	・生活科、3、4年生での社会科、5、6年生での総合的な学習の時間の授業(「宇都宮学」)や掲示物等を通じて、宇都宮市の伝統・文化・産業等に対する児童の理解を深め、郷土愛を育む。 ・宇都宮に関する学習後は、家庭で保護者と知識を共有したり、教えあったりする機会を設けるなど、保護者も巻き込んだ取組の工夫を図る。 ・学年だよりやホームページ等を活用し、より積極的に家庭に周知する。	A	【達成状況】 児童 90.8% 保護者 76.5% ・保護者の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・学年だよりやホームページ等を活用し、より積極的に周知する。 ・宇都宮について親子で話し合う場を確保するために、11月に「うつのみやウィーク」を設定し、宇都宮のよさを広める活動をプロジェクト活動として実施する。
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	・学校や家庭における学習で、児童が一人一台端末を文具として活用できるよう、発達の段階に応じた適切な指導を行う。また、AIドリルを活用し、基礎的な学力の確実な定着を目指す。 ・適切・安全に使いこなすことができるよう、児童にネットリテラシーなどの情報活用能力を育成するために5、6年生において1回ずつ出前講座を実施する。 ・市立図書館と連携し、授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ・児童がパソコンや図書等を学習に活用する様子を図書だよりやHPで公表し、取組状況について周知を図る。	B	【達成状況】 児童 96.9% 教職員 100.0% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き、ICT機器や図書資料などを学習に計画的に活用していく。

2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	・社会科・理科・生活科・総合的な学習の時間等の授業において、東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を活用し、地域や国土の環境、防災への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ・SDGsを意識したぼくら活動、プロジェクト活動の充実を図り、牛乳パックのリサイクルやプラスチックごみの分別、環境美化への呼びかけなど家庭とも連携しながら、継続して行う。また、節電・節水・リサイクルなど児童が自分にもできることを進んで考え、行動する意識を高める。	B	(達成状況) 児童 93.9% 教職員 81.3% ・教職員の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続しながら、プロジェクト活動においては学校全体へ周知する方法を工夫する。 ・学校での取組がSDGsのどの目標と結びついているのか職員全体で確認し、足並みを揃えて取り組む。
3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 95%以上	・特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ・通常の学級においても、必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。 ・校内研修や職員会議等の際に、児童指導上の課題等を共有する場を確実に設け、適切な指導及び必要な支援の在り方について、教職員の理解を深める。	B	【達成状況】 教職員 100.0% ・目標を上回った。 【次年度の方針】 ・今後も特別な支援を要する児童の共通理解を図り、必要に応じて組織的対応を行う。
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A 11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	○「市及び本校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめは絶対許されないことという児童自身の規範意識の向上や思いやりの心の育成に努める。また、基本方針を学校ホームページで公開するとともに、校内での取組について学校だより・学年だより等を活用するなどして周知を図る。 ・いじめゼロ強調月間の取組やプロジェクト活動を通して、いじめの未然防止・早期発見・適切な対応に努める。 ・いじめの原因の一つともなり得るSNSの利用や情報モラル等を指導するとともに、適切な使い方について保護者と共通理解を図る場を設定する。	B	【達成状況】 児童 99.2% 保護者 89.1% ・保護者の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・保護者の肯定的回答が昨年度を大幅に下回っているものの、目標値との差は0.9%にとどまっているため、今年度の取組を継続していく。いじめゼロ強調月間の活動等や日々の指導について学級懇談会も活用しながら保護者へ発信していく。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上	・互いに存在を認め合う人間関係づくりを目指し、各自が自己肯定感を高められるよう、教師による日常的な声掛けや朝の会・帰りの会等での児童が互いに称賛し合う場の設定を行う。それぞれの学級での取組を、学級懇談会や学年だよりで周知する。 ・教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し、不適応傾向・問題行動の早期発見と不登校の兆候や傾向のある児童に係る校内での情報共有を図る。 ・「共遊の時間」を継続実施し、児童同士及び教職員と児童のより良い関係づくりに努める。	B	【達成状況】 児童 99.2% ・目標を上回った。 【次年度の方針】 ・児童の肯定的活動が昨年度よりも上回っているため、今年度の取組を継続・実施していく。特に「共遊」の時間を通して、教職員と児童のより良い関係の構築を図るとともに、児童同士の関係の把握に務める。
3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実 3-(4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民肯定的割合 90%以上	・全職員による日常的な声掛けを行い、児童の様子を職員で共有する場を設ける。 ・「なかよしタイム」及び「共遊の時間」を継続実施し、児童同士・教師と児童間の豊かな人間関係の構築に努める。また、日常生活や瑞南ふれあい祭りなど、あらゆる教育活動の場面で、教師と保護者や地域の人とがふれあう機会を設定する。 ・児童会活動の活発化を図り、児童が主体的に取り組む場を設ける。	B	【達成状況】 児童 100.0% 教職員 100.0% 保護者 89.5% 地域住民 100.0% ・保護者の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・保護者の肯定的回答が昨年度を大幅に下回っているものの、目標値との差は0.5%にとどまっているため、今年度の取組を継続していく。児童への関わりや見取りをこれまで通り継続し、保護者とお会いした際には児童について積極的に情報交換していく。
4-(1) 教職員の資質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	・授業のねらいの明確化とまとめ・振り返りの実施により、児童が見通しをもって取り組み、学んだことや自分の成長を実感できる授業を行う。 ・教科担任制や習熟度別学習、T・Tなどの少人数指導を充実させ、児童の実態に合わせて、各自の学力をさらに伸ばす指導や取組について工夫していく。 ・児童の学力向上を目指し、分かる授業を展開するために学校課題を軸とした職員研修等を通して教職員の資質向上を図る。 ・週3回の朝の「がっちり学習」を二人体制で実施し「できた」という実感を味わわせる指導を積み重ねる。	B	【達成状況】 児童 99.2% 保護者 92.3% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、今年度の取組を継続させていく。特に、授業のねらいの明確化をまとめ、ふりかえりの実施により、児童が見通しをもって取り組み、学んだことや自分の成長を実感できる授業の構築に力を入れていく。

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	・教職員は、話を聴く、声を掛ける、称賛する、指導する、家庭と連携するなど、児童・保護者等と積極的に関わる。 ・全教職員が学校経営への参画意識をもってチームとして取り組めるよう、情報交換の時間を確保し、共通課題を設定し解決に取り組む。 ・教職員同士の打合せの時間を確保したり報・連・相を徹底したりしてコミュニケーションを十分図れるようにし、教職員同士が協力し合い、協働して教育活動の推進に努める。	B	【達成状況】 教職員 100.0% ・目標を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、日頃から教職員間のコミュニケーションを十分に図り、協力・連携して教育活動の推進に努める。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	・全教職員が児童と向き合う時間の確保に努めるために、働き方改革の視点に立って、昨年度の反省を生かし、業務の効率的な実施・計画的な処理を意識する。 ・学校行事の精選、校務分掌の見直し等により、業務量の縮減を目指す。 ・業務内容の可視化を図り、小チームで計画的に対応できる仕組みを構築するなど、職員間の連携を強化する。 ・ミライムによる出退勤の記録を蓄積することにより、適正な勤務時間の管理についての教職員自身の意識を高める。 ・「リフレッシュデー」や「セルフリフレッシュデー」を活用し、メリハリのある勤務を心掛ける。	B	【達成状況】 教職員 100.0% ・目標を上回った。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続するとともに、働き方改革の視点に立って、業務の効率化に努める。 ・月1回の『リフレッシュデー』を設定し、メリハリをもって業務に取り組む。
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 80%以上	○地域学校園分科会ごとに今年度の基本方針を受けた取組の充実を図る。計画的な分科会の実施により、地域学校園内の情報交換を密にして共通理解を図り、地域の課題に即した各分科会の取組の充実を図ることで、小中の相互理解を深める。 ○児童や保護者にも広く「小中一貫教育」の取組と意義を周知するため、学校だより・HP・さくら連絡網等の広報活動を積極的に行う。	B	【達成状況】 児童 95.3% 教職員 100.0% 保護者 73.2% ・保護者の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・保護者の肯定割合が目標値を下回っているため、小中の連携した取組をホームページ等で積極的に発信するとともに、学級懇談会で直に保護者へ周知する機会を設けるなど、広報活動を工夫する。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民肯定的割合 90%以上	・街の先生や地域ボランティアの方々を学校行事や授業に積極的に活用することを通して地域の教育力の活用を図るとともに、学校と地域が協働して児童の健全育成に取り組める環境づくりに努める。 ・地域協議会との連携を工夫し、授業や学校行事等に地域の教育力を積極的に活用できるよう、更なる情報収集に努める。	B	【達成状況】 保護者 94.4% 地域住民 93.3% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・今後も地域協議会での情報交換や積極的なボランティアの活用を通して、地域・家庭と連携した教育活動の充実を図っていく。

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民肯定的割合 90%以上	・感染症対策の徹底、熱中症予防対策など、時期に応じて適切な保健指導管理に努める。 ・定期的に学校施設の安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ・危機管理マニュアルの見直しや改善を適時行い、避難訓練等を通して、火災、地震、竜巻、洪水、不審者侵入等の不測の事態に備え、児童自身に災害に立ち向かう態度や防災に関する基礎知識を身に付けさせ、危機回避能力を育成する。また、それらの取組を学校だよりや保健だより等で保護者及び地域住民にも情報発信し、日常生活における安全な行動の仕方を共有していく。	【達成状況】 保護者 95.8% 地域住民 100.0% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、これまでの取組を継続し、今後も適切な安全管理に努める。 ・取組内容をホームページ等で適宜発信し、家庭・地域と情報を共有し、連携して安全管理に取り組む。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	・一人一台端末の活用法について、ICT支援員と連携して校内研修を実施したり、教職員同士で積極的に情報交換を行ったりする。 ・学校用グループウェアや校務支援システム、デジタル連絡ツールを効果的に活用して校務の効率化を図る。	【達成状況】 教職員 100.0% ・目標を上回った。 【次年度の方針】 ・今後も教職員同士の積極的な情報交換やICT支援員による校内研修などを通して、効果的な活用を図る。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民肯定的割合 90%以上	○児童会プロジェクト活動によるあいさつ運動、下校時のあいさつ、児童集会での呼びかけ等により、自ら進んであいさつしようとする態度を育てる。 ・教職員から進んで丁寧なあいさつをすることで範を示し、教職員、保護者、来客に対して自分からあいさつできる児童を育成する ・あいさつ強化週間では、さくら連絡網等で家庭への協力も呼びかけ、家庭と連携しながらあいさつの習慣化に取り組む。	【達成状況】 児童 91.6% 教職員 100.0% 保護者 87.2% 地域住民 93.3% ・保護者の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・保護者の回答が目標値を2.8%下回っているため、次年度は学級活動であいさつをより良くするためにできることを話し合ったり、プロジェクトのあいさつ運動を活用したりしながら気持ちの良いあいさつが自然とできるように活動内容を充実させていく。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民肯定的割合 90%以上	・生活目標の提示の仕方を工夫するとともに、月末に児童の生活の様子に関するアンケートを実施し、職員間で共有を図り、適切な場所で適切な機会に指導を行い、児童がきまりやマナーを守って生活しようとする意識を醸成する。 ・ふりかえりタイムの設定により、自分自身を振り返り、落ち着いた生活を送ろうとする態度を育てる。 ・チャイムの有無にかかわらず、授業開始時刻や一斉下校の時刻など、時間を守ることの指導を徹底する。 ・3つの「あんぜん・あいさつ・ありがとう」や靴箱の靴揃えについて周知を徹底していく。	【達成状況】 児童 97.7% 教職員 100.0% 保護者 96.1% 地域住民 100.0% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・児童、保護者ともに昨年度の結果を僅かに下回った。これまでの具体策を継続しつつ、道徳や学活において、「なぜきまりやマナーがあるのか」について考えさせることで、児童の規範意識を高めていく。

本校の特色・課題等	B 3 児童は、周囲の人に感謝の気持ちをもって生活している。 学校独自アンケート 「児童は、お世話になった人に進んで感謝の気持ちを伝えている。」 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民肯定的割合 90%以上	・様々な人々の協力によって自分たちの安全で快適な学校生活が維持されていることに気付かせ、周囲の人や物に対しての感謝の気持ちを培う活動を、家庭と連携して工夫して行う。 ・帰りの会等で、児童同士が相互に認め合って感謝を述べ合う場を日常的に設定する。また、教職員が児童のよい行いに気付いた際には積極的に感謝の言葉を述べ、範を示す。	B	【達成状況】 児童 99.2% 教職員 100.0% 保護者 92.0% 地域住民 92.9% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・日頃から地域やボランティアの方々に見守られて、充実した学校生活を送れていることを意識できるよう教職員から声掛けをしていく。
	B 4 学校と家庭とが連携し、基本的な家庭学習の習慣が育成されている。 学校独自アンケート 「児童は、基本的な家庭学習の習慣が身に付いている。」 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	○家庭学習スタンダードや家庭学習ファイルを活用し、家庭と連携しながら家庭学習を奨励する。家庭学習強化週間を設け、児童への具体的な学習内容の指導だけでなく、児童の意欲を高め望ましい学習習慣を身に付けるために有効な関わり方等についても、学級懇談会等を活用して保護者に分かりやすく紹介する。 ・児童の学習状況を踏まえた課題を与えるなど、家庭学習を効果的に進められるような学習環境づくりを進める。	B	【達成状況】 児童 91.6% 保護者 84.6% ・保護者の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・次年度も家庭学習の習慣化が図れるように学級懇談会などを活用し、学校としての働きかけを続けていく。

〔総合的な評価〕

○「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容

- ・評価に対する数値目標については、24項目の評価項目の中で児童の2項目、教職員の1項目、保護者の6項目を除く項目で目標を達成した。児童への設問では、1項目（0.6ポイント）を除く23項目で市の平均を上回り、A14「学校は一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」は、肯定的回答が100%であった。本校児童は、学校の教育活動にうまく適応しているものと考えられる。また、保護者への設問でも1項目を除く項目で市の平均を上回っていた。全体的に昨年度を少し下回っているが、高い肯定的回答である。
- ・「思いやりの心」については、教職員・地域住民とも100%で、児童・保護者も昨年度をさらに上回り、温かい校風が受け継がれている。
- ・「宇都宮の良さ」については、今年度も児童と保護者の捉え方に大きな差（14.3ポイント）があったことから、宇都宮について親子で話し合う場が必要である。今後は、「うつのみやウィーク」を設定し、宇都宮のよさを広める活動を児童主体のプロジェクト活動として実施していきたい。
- ・「デジタル機器の活用」については、保護者の肯定的回答が昨年度を上回り、目標を達成した。端末を使った家庭学習や授業参観等を通して、発達段階に応じて積極的に活用していることが周知できたと考える。
- ・「いじめ対策」と「一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気」については、児童は99%や100%と高い肯定的回答であるのに対し、保護者は目標の90%にわずかに届かず、その差は10ポイントである。大きな問題案件はなく疑問な点もあるが、今後は、保護者の不安解消に努める必要がある。
- ・「業務の効率化」については、教職員の肯定的回答が100%となり、働き方改革が進み改善が見られた。
- 「小中一貫教育」については、児童は昨年度同様であるが、保護者の肯定的回答が、昨年度を下回り市の平均も下回った。地域学校園で連携して取り組んでいるあいさつ運動や乗り入れ授業等の昨年度同様の取組に加え、新たな取組も行ったが周知されていないと考えられる。さくら連絡網やホームページなどの発信は効果が薄くなっているようなので新たな方法を考えなければならない。
- ・本校の良さである「あいさつ」の肯定的回答が、児童・保護者・地域住民とも昨年度を下回った。登下校とも送り迎えの児童が増加し、地域の方との繋がりが薄れてきている。校内だけでなく、家庭や地域を巻き込んだ取組が必要である。
- ・「家庭学習の習慣化」について保護者の肯定的回答は、昨年同様で目標値には届かなかった。家庭学習の習慣化が図れるように、今後も家庭学習強化週間等を活用して学校としての働きかけを続けていきたい。

7 学校関係者評価

- ・「あいさつ」について地域の方から「あいさつする子が減っている」と指摘を受けたが、子供によって性格的なものがあるので、特に問題はないと思う。
- ・「家庭学習の習慣化」については、1人1台端末を使った課題に保護者が不慣れなところがあり、ゲームをしているように見えてしまうところがある。
- ・「宇都宮の良さ」については、昨年度はLRTの影響で肯定的回答に繋がったと考えられる。子供たちが学習している「宇都宮学」や生活科等での学習内容を保護者が周知していないのではないか。今後、学習したことを児童から保護者へ伝えるようにすると良い。
- ・家庭学習の習慣化は大切であるが、外で元気に遊ぶ姿も大切にしたい。
- ・学校からの情報がより多くの保護者に周知されるように、各種たより等「さくら連絡網」での通知の際は、内容を減らして大切なことを大きく書き、印象に残る工夫をすると良い。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

○「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容

- 中高学年における教科担任制や一人一授業を実施し、教職員の授業力・指導力の向上や児童の学習意欲を喚起してきた。今後も、教科担任制を柔軟に取り入れるとともに、算数科を中心に研究してきた授業づくりで得た基本スタイルを継続する。さらに他の教科でも、文章による振り返りを定着させ、書くことによって思考する活動を充実させていきたい。家庭学習の習慣化についても家庭学習強化週間を柱に懇談会等も活用して学校での取組や情報交換を行っていくとともに、認め励ます指導を充実させる。
- いじめ対策を含め一人一人が居心地のよい学級・学校づくりに向け、これまでの取組を継続するとともに、保護者や地域に学校の取組を丁寧に説明したり情報発信したりして、共通理解を図りながら進めていく。
- 本校児童の強みである「あいさつ」については、日々の積み重ねを大切に、家庭や地域と連携し合って気持ちの良いあいさつが自然にできるように指導していく。その際、プロジェクトによるあいさつ運動を活性化させ、家庭や地域を巻き込んだものにする。
- ・「宇都宮の良さ」についても、宇都宮について親子で話し合う場を確保するために、11月に「うつのみやウィーク」を設定し、宇都宮のよさを広める活動をプロジェクト活動として実施する。